



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床・エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



米国におけるA型肝炎のアウトブレイクの状況

米国の37州において、A型肝炎のアウトブレイクが報告されている。その詳細が週報（MMWR）に記載されているので紹介する（1）。

はじめに

- A型肝炎ウイルス（HAV：hepatitis A virus）は糞口感染する。A型肝炎〔註釈1〕は一般に軽症で自然に治癒するが、重篤な合併症（死亡を含む）が発生することがある。しかし、A型肝炎は非常に効果的で安全なワクチンによって予防することが可能な疾患でもある。
- 2016年以降、ヒトからヒトへの伝播に関連するA型肝炎のアウトブレイクが37州で報告されており、2023年10月6日時点で約44,900人の症例、27,450人の入院、423人の死亡が報告されている。
- 米国では、2016年から2022年の期間は、2009年から2015年の期間に比べてほぼ2倍のA型肝炎による死亡が発生した。

調査

- 2016年8月1日から2022年10月3日までの期間に少なくとも1人のアウトブレイク関連死亡を報告した32の州保健局に、A型肝炎のアウトブレイク関連死亡のすべてについて、州のアウトブレイクデータベースからの匿名化された人口統計、危険因子、臨床データと、死亡証明書からの死亡場所と死因のデータを要求した。
- すべてのA型肝炎の症例は、国務院および準州疫学者のA型肝炎サーベイランスの症例定義を満たしていた。
- アウトブレイク関連死亡の定義は「州保健局がA型肝炎に起因すると判断した死亡」とされた。

結果

- CDCは、A型肝炎のアウトブレイク関連死亡を少なくとも1人を報告した32州のうち、データに貢献している27州（84%）のデータを分析した。
- これら27州では315人のアウトブレイク関連死亡が発生しており、それはデータ要求時点で公的に報告されているA型肝炎のアウトブレイク関連死亡の約75%（公的に報告されているアウトブレイク関連死亡の約71%）を占めている。
- 死亡は2016年9月13日から2022年6月20日までに発生し（図1）、そのほとんどが男性（73%）と非ヒスパニック系白人（84%）であった。死亡年齢の中央値は55歳であった。
- アウトブレイク関連死亡は2019年にピークに達し、その後2022年まで毎年減少した。

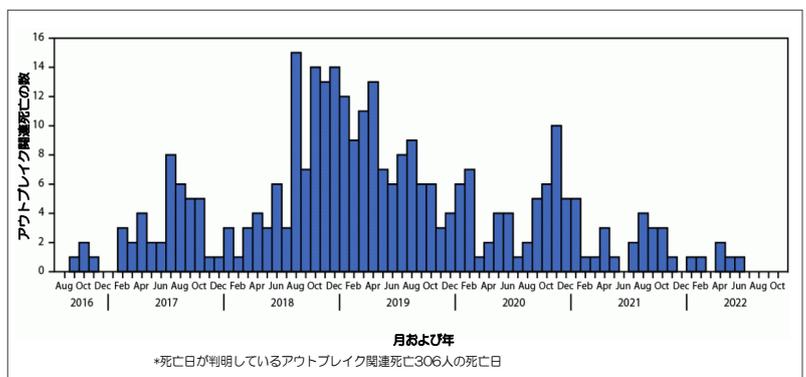


図1. A型肝炎のアウトブレイク関連死亡の死亡日* — 米国27州、2016年8月1日～2022年10月31日

- 症状の発症から死亡日までの間隔の中央値は17日であった。死亡者のうち、91%が入院し、77%が黄疸を患い、1人（1%未満）が肝移植を受けた。入手可能な情報がある入院中の死亡者218人の入院期間の中央値は7日（IQR=4～14日）であった。
- HAV感染の危険因子として最も多く報告されているのは薬物使用（41%）、次いでホームレスまたは不安定な住宅（16%）であった。C型肝炎との同時感染（31%）は、B型肝炎との同時感染（12%）よりも多かった。
- 過去にA型肝炎ワクチン接種を受けた記録があったのは12人の死亡者（4%）のみであった。ACIP（予防接種実施に関する諮問委員会：Advisory Committee on Immunization Practices）の推奨に従うと、63%がA型肝炎ワクチン接種〔註釈2〕の適応条件〔註釈3〕の少なくとも1つをもっていた。
- 272人（86%）の死亡者について、27州のうち25州（93%）から死亡証明書データが提供された。A型肝炎は死亡診断書のうち108件（40%）に記載されていない。A型肝炎が記録された164人（60%）の死亡証明書のうち、142人（87%）ではA型肝炎が死因として記載され、26人（16%）では死亡に寄与する重大な疾患として記載されていた。

考察

- 2016年8月1日から2022年10月31日までのA型肝炎のアウトブレイク関連死亡315人の疫学を特徴づけるため、27州のデータが分析された。死亡者は主に男性、非ヒスパニック系白人、50歳以上の人々であった。
- 死亡者の約3分の2は、薬物使用、ホームレス生活、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスの同時感染など、A型肝炎ワクチン接種の適応条件が少なくとも1つ記録されていた。しかし、過去にA型肝炎ワクチン接種を受けたという記録があったのは12人の死亡者のみであり、A型肝炎による死亡を防ぐ機会を大幅に逃したことが示された。
- A型肝炎は通常、自然治癒し、予防することが可能な病気である。しかし、「予防ケアへのアクセスが限られている」「不安定な住宅状況にいる」「衛生サービスへのアクセスが不十分である」「肝疾患を併発している」といった人々が感染すると、致死的な結果を招くことがある。
- これらの調査結果は、医療サービスが十分に受けられていない人々の健康を改善するには、ワクチン接種、ハームリダクション〔註釈4〕、物質使用障害〔註釈5〕の治療、衛生と衛生を含む統合された包括的なサービスの重要性を強調している。
- 入手可能な死亡証明書データを持つ272人のアウトブレイク関連死亡のうち、A型肝炎が死因または死亡に寄与する重大な状態として記載されているのは死亡証明書の60%のみであった。このことは、米国の国家人口動態統計データにおけるヒト-ヒト伝播によるアウトブレイクに関連したA型肝炎の死亡率が大幅に過小評価されていることを示唆している。

公衆衛生実践への影響

- A型肝炎はワクチンで予防可能な疾患である。安全で効果の高いワクチンは何十年も前から利用可能になっている。
- 移動型ワクチン接種カーや徒歩チームを通じたアウトリーチ、刑務所やホームレス保護施設でのワクチン接種クリニック、ワクチン接種を拡大するための保安協会やその他の地域ベースのパートナーとのパートナーシップなど、保健局による集中的な取り組みにより、最近のアウトブレイクの制御では大幅な進歩が見られた。
- 2023年10月の時点で、34の州がアウトブレイクの終息を宣言している。しかし、感受性の高い成人の多く、特に薬物使用者、ホームレス生活を経験している人、慢性肝疾患を患っている人は、依然としてHAV感染またはHAV感染による重篤な疾患のリスクが高い。
- A型肝炎のワクチン接種率を高めることは、将来のA型肝炎による死亡を防ぐために非常に重要である（図2）。



図2

文献

1. Hofmeister MG, et al. Preventable Deaths During Widespread Community Hepatitis A Outbreaks — United States, 2016-2022
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/72/wr/pdfs/mm7242a1-H.pdf>

〔註釈1〕 A型肝炎ウイルスは第4類感染症に分類されるので、直ちに届け出を行う必要がある。

〔註釈2〕 A型肝炎ワクチンは、本邦の規則により任意接種ワクチンに分類される。

〔註釈3〕 薬物使用やホームレスなどの行為はA型肝炎に罹患するリスクが高くなるので、A型肝炎ワクチンを接種することが勧められる。

〔註釈4〕 ハーム・リダクション（harm reduction）：個人が健康に害を及ぼす行動習慣（薬物使用など）を即座に断つことができない場合、それに伴う害や危険を最小限に抑えることを目的とする公衆衛生上の取り組み、ガイドライン、政策のこと

〔註釈5〕 物質使用障害（substance use disorder）：物質の使用に関連する重大な問題を体験しているにもかかわらず、その物質を使用し続ける行動パターンがみられる状態

株式会社メディコン

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地1-13-22

カスタマーサービス Medicon-web@bd.com

crbard.jp

